



2020年度 事業報告

公益財団法人東京YWCA

目次

ご挨拶	1
東京YWCA 2020 年度基本方針	1
Ⅰ 平和と人権事業	2
Ⅱ 青少年育成事業	7
Ⅲ 女性の健康事業	11
Ⅳ 社会福祉に資する事業	13
Ⅴ 非営利機関・団体への施設貸与事業	17
Ⅵ 東日本大震災被災者支援事業	17
Ⅶ 収益事業および共益的な事業	18
Ⅷ その他	20
2020 年度公益財団法人東京YWCA組織図	21
理事・監事・評議員	21
賛助会員・寄付者	22
財務諸表	24
監査報告	29
事業を行っている主な拠点	

ご挨拶

夏のきざしが感じられるこの頃、皆様には引き続き難局に立ち向かっておられることと拝察致します。

本頁に2020年度の基本方針、重点課題が掲載されておりますが、会員総会開催が叶わなかったため、書面による同意を得て、前年度のものを踏襲しております。多くの活動が中止、最初の緊急事態宣言中は東京YWCA会館を初めとして各拠点が閉館を余儀なくされ、女性の健康事業や青少年育成事業は殊に大きな痛手を被りました。野尻キャンプはすべて中止となりました。

それでも保育園、学童保育、療育等は社会の要請に応えるべく、可能な範囲で子どもたちを受け入れて参りました。日本語を母語としない家庭の子どもたちの学習支援事業では、オンライン指導も取り入れて活動を継続していますし、留学生支援事業は、従来の枠を拡大して留学生に経済的支援を行う等、限られた条件の下ではありますが、私共の使命を果たすべく努力を続けております。

こうした中で私共の事業にご協力下さっている関係諸機関、会員・会友、わけても寄付者の方々に感謝を申し上げますと共に、今後も尚一層のお支えをお願いしてご挨拶とさせていただきます。

2021年6月

公益財団法人東京YWCA

代表理事 川戸れい子

東京YWCA 2020年度基本方針・重点課題

日本YWCAのビジョン（※）をふまえて、東京YWCAの2020年度の基本方針・重点課題を以下のとおりとした。

基本方針

1. 非戦の立場に立ち、平和憲法を護り、活かす。
2. 核兵器のない世界、原発のない社会を目指す。
3. 持続可能な環境を実現する。
4. いのちを尊び、平和を願い求める青少年を育てる。
5. 個人の尊厳を重んじ、支え合う社会を目指す。

重点課題

- 危機意識を共有し、憲法改悪阻止のために行動する。
- 女性の人権を意識する。
- 多様性を受容し、行動する。
- 脱原発のために行動する。
- 青年枠（35歳以下）の会員増加に努める。

（※）日本YWCA第32総会期 主題聖句・ミッション・ビジョン

主題聖句

平和を実現する人々は幸いである
—マタイによる福音書5章9節

使命（ミッション）

イエス・キリストに学び、共に生きる世界を実現する。
世界の人々と共に人権・平和・環境の問題に取り組む。

ビジョン

地域で女性達が主体的に活動することを通して、以下の社会をめざします。

- (1) 平和憲法が生かされ、核も暴力もない社会
- (2) 女性と子どもの尊厳を守る社会
- (3) 若い女性がリーダーシップを発揮する社会
- (4) 多世代・多文化で多様な背景を持つ人びとを尊重する社会

I 平和と人権事業 (公益目的事業 事業番号：公1)

この事業は、平和、非暴力、非核、非戦を訴え、人権が尊重され、すべての人が共に生きる世界の実現を目指し、社会で不当な圧力を受けやすい人々を支援する事業です。



国際語学ボランティアズ ILV30 周年懇談会



オンライン留学生談話室



中国帰国者日本語サロン

1. 日本で学ぶ外国人留学生支援事業

家庭交流を中心とした外国人留学生支援は、1961 年に 1 人の外国人留学生と東京YWCA会員（母親）の 1 対 1 の「組み合わせ」という形で始まった。留学生との交流による気づきによって、留学生を支援する運動が生まれ、「留学生の母親」運動として現在に至っている。今年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、一時帰国をしている留学生を含め、ほとんどの留学生が 4 月の段階では日本に入国ができなかった。そのため例年春に行っている留学生との「組み合わせ」は秋に延期した。9 月に実施したオンラインの「組み合わせ説明会」に 29 人の留学生が参加した。その内 20 人から組み合わせの申込があり、留学生全員を母親と組み合わせることができた。留学生は、アジア 5 か国・地域からの出身で、その中では、中国からの留学生が多かった。

組み合わせの留学生と日本人家庭が 11 月に初めて対面し、今年度の交流が始まった。12 月には一般留学生も参加する「日本語発表会」をオンラインで開催した。スピーチでは今年度の生活の

様子や今後に向けた考えを聞くことができた。「つらい時は、永久に続くわけではないと自分に言い聞かせながら、歯を食いしばった」と前向きにとらえて日本で勉学を続ける留学生のことがばを聞いて、参加者からは「感動し、励まされた」という感想があった。3 月に新会員を迎えて会員の交流会を開催した。そこでは、対面で交流することが難しいという声が聞かれた。一方でこの状況でもオンライン、電話、LINE を使用して可能になった交流事例も報告され、人と人との直接会えない中での支援について意見を交わした。

3 月には、日本語学校、専門学校、大学、大学院を卒業する組み合わせの留学生に、組み合わせをした母親からのメッセージを添えた、卒業祝いカードを送った。

留学生相談室は、定期的に関室するに足りる相談員を養成することができず、引き続き休室した。寄せられた相談・問い合わせには、個別に対応をした。対面による相談は 2 回、電話による相談は 10 回、メールによる相談・問い合わせは 53 回あった。相談内容は、在留資格をはじめとして、新型コロナウイルス感染の影響で国際郵便がとめられて

いるため、留学生が保証人を立てられずに困っている、オンライン中心の授業やアルバイトの時間数減少で、人と接する機会が減り精神的に不安である等であった。学校の先生や友人と会うことができなくなり孤独感やストレスを抱く留学生への接し方について会員を対象に 8 月、オンラインで勉強会を開催した。留学生に具体的な声掛けをすることによって、相談を受ける前に留学生の心身の健康状態に気づき、親身になって、話を聴くことの大切さを学んだ。

ショートホームステイとホームビジットは、感染拡大防止のため実施しなかった。

日本語支援は、昨年 2 月下旬から休室していた「留学生談話室」を 6 月からボランティア企業の協力でオンライン談話室の実施練習を重ね、7 月以降毎週土曜日に複数グループに分かれて談話室を開始した。

談話室形式の他に 7 月から電話と LINE を使った 1 対 1 の個別支援も始め、20 人の留学生に、生活、就職活動、レポート等の内容について 272 回にわたり実施した。

日本語支援のボランティアを対象に、

「やさしいにほんご」についての講座を開催した。日本で学ぶ外国人に対して、わかりやすい日本語とはどのようなものか、日常生活やもしもの非常時の声掛けについて学習した。ことばと共に相手が何を言おうとしているか、状況から理解しようとする聞き手のやさしさが大切であることを学ぶことができた。

「留学生資金」の貸与・供与について、新型コロナウイルス感染拡大により緊急事態宣言が発出され、例年に比べアルバイトが減少・皆無となる経験をした留学生が多かった。組み合わせの留学生から母国に帰れず日本に留まる留学生が生活苦に陥る報告が寄せられた。仕送りが遅れている留学生1人に年額10万円の資金貸与を行った。また、経済的に困窮する組み合わせの留学生17人にひとり上限5万円の資金供与を行った。

2. 留学生助成事業

外国人留学生を対象に、勉学に意欲的かつ経済的に困難な学生に対し、留学生の目的が達成できるよう、奨学金を支給した。

平和な社会の実現を目指して将来活躍する留学生を支援するという目的にそって選考作業を進めた結果、6人の留学生を今年度の奨学生に決定し、1人年額36万円を支給した。年3回、オンラインによる奨学生報告会を開き、奨学金小委員会や会員が、奨学生から勉学や生活の様子を聞いた。その中で対面のないオンライン授業では教員の話を理解し辛いことや、日本での就職に高い関心を持っていることがわかった。10月の奨学生報告会は、社会人の元留学生（*元奨学生ではない）1人や就職活動を経験している現役留学生である元奨学生2人から体験を聴く機会をつくった。報告会後の奨学生の個別面談では、孤独感、生活困窮、オンライン授業による多くのレポート課題提出とい

った生活・学業面で抱えている問題を聞き、精神的サポートにも務めた。最終となる1月の報告会では、寄付者にも参加してもらい、奨学生から報告を受けた。

今年度は通常の奨学金のほかに、特別奨学金の実施を急ぎ夏に決めた。対象をあと少しで卒業ができる大学3,4年生及び専門学校最終学年の学生とし、11月に5万円を20人（応募者82人）に支給した。家賃や食費、卒業論文のための参考書代に充て学業や就職活動に集中できたという嬉しい報告も届いた。

3. 中国帰国者日本語支援事業

中国帰国者日本語教室は、中国帰国者が日本に定着し、地域社会にとけこみ、自立した生活を営むために必要な日本語の基礎を習得することを目的に、公益財団法人中国残留孤児援護基金自立研修事業の再委託として実施してきたが、2020年度の委託はなく、休止した。

日本語学習サロンは、主に日本語教室を修了した高齢の帰国者を対象に日本語の運用力を身につけ、社会参加をうながすことを目的に都内感染状況を見ながら実施してきた。11月、12月、3月に各1回ずつ開催した。高齢になった帰国者にとって日本語サロンは、外出を控え他者との交流が少なくなった生活環境の中、安心して参加できる数少ない自分の居場所となることができた。日本語サロンの講師、日本語サロンを主宰する交流委員会のメンバーは、日本語サロンが定期的に開催できない期間、はがきや電話などで消息を聞き、精神的サポートを行った。

4. 平和をつくるキャンペーン

平和、非暴力、非核、非戦の啓発活動は、東京YWCAの基本方針のひとつ「非戦の立場に立ち、平和憲法を護り、活かす」について、非戦、非核、非暴力をもとに考えることを目的に2012年から「憲法カフェ」を開催してきたが、今年度は、対面での集会を開催することが出来なかった。5月3日、11月3日の関連団体主催の憲法集会には、会員有志がオンラインや直接、国会議事堂前で参加した。

「オンライン・セーフスペース」は、10月に「オンライン表現ワークショップ」を開催し、先の見えない状況の中、安心して話せるスペースで自分に向き合うことを通して想いを分かち合う時をもった。12月には、「健康」をテーマに取り上げた。前半は、「性と生殖に関する健康と権利」をファシリテーターから聞き、後半は、多世代の参加者全員でフリートークの時間をもった。

Rise Up! School Visits (RUSV) は、「人権教育としての性教育」の視点を持ち、日本YWCA加盟の中高YWCAを訪問し、ワークショップ形式で開催を考えていたが、8月末にオンラインで初回をおこなった。

女性の人権をテーマに、3月末に「伊藤詩織さん講演会」-女性への暴力に声をあげよう！-をオンラインで開催し、企画メンバーのユース3人が進行役となり、講演者に質問しながら対話形式ですすめた。後半では、30歳以下の参加者がグループに分かれ、思いを話し合った。

クリスマスは「平和へ想いをよせ、祈り、求めるとき」として、Christmas for Peace 2020をオンラインで開催した。

「暗闇に光を」をテーマにクリスマスメッセージを日本キリスト教団佐敷教会の金井創牧師からビデオ配信を受けた。メッセージへの思いを分かち合う

トークセッションでは、グループに分かれ、話しあう機会をもった。

開催40回を超す「0422 市民クリスマス」は、市外局番0422の教会(超教派)YMCA・YWCAが合同で一般市民を対象として実施してきた。今年度は、「世界はひとつ」をテーマにオンラインでのクリスマス礼拝を開催した。新しい試みとして「0422 市民クリスマス」に参加する教会および団体を紹介する短い動画配信を準備し、集まることが困難な状況の中、一人ひとりが0422 市民クリスマスを通して教会と繋がるよう、事務局として働きを担った。

HIV/AIDS 啓発のためのキャンペーンは、今年度は具体的な取り組みは実施しなかった。

5. 平和と人権に関する人材育成事業

「**支援者エンパワメントプログラム**」は、DV(ドメスティック・バイオレンス)被害者の支援に取り組む人材の養成を目的に、支援者が孤立しないよう、支援者同士が気軽に集い交流する場としての支援者サロンと、支援者同士がエンパワーし支え合う学びの場である支援者トレーニング、ガイドラインを使ったフォローアップ研修を柱に、支援者がよりよい支援を行うために必要なプログラムを提供した。支援者トレーニングは、これまでの対面方式をオンラインに切り替えるため、研究を重ね、2月に3日間にわたり実施し、23人が全日程に出席した。トレーニング終了後に行うフォローアップ研修は、今回は、次年度に持ち越すことになった。また、支援現場の課題やニーズに応じて内容を組み立てる施設向けのオーダーメイド研修を延べ6回行った。その施設や現場にとって必要とされる研修内容、例えば、DVおよびDV被害者支援の基礎について、支援者のケア、この分野で先駆的なアメリカの現状から学ぶ

支援のあり方などこれまでも扱っている内容の他、「DV加害者対応」なども取り上げた。支援者トレーニングと並行して実施している支援者サロンは、これまで対面で開いてきたが、今年度は開催することができなかった。

「**DV被害者支援におけるサバイバー主導の支援普及プロジェクト**」は、3か年計画での2年目にあたる。このプロジェクトは、サバイバー本人の思いや希望を中心においた支援スタンス(サバイバー主導の支援)を普及することを目的に、全国各地で「サバイバー主導の支援」を中心とした支援者トレーニングを開催する計画だったが、新型コロナウイルス感染拡大でオンラインで1回しか開催できなかった。全国の支援者トレーニング修了生約200人に対して、よりよい支援を継続できるようネットワーク形成を支援し、昨年度モデル地域として支援した秋田、静岡、大阪、熊本地域の修了生には、今年度も個別にサポートをした。大阪地域と北海道・十勝の修了生から従来の対面トレーニング開催の要望があったが、オンラインで開催したトレーニングに参加してもらった。また、今年度から始まった内閣府の「DV被害者等セーフティネット強化支援パイロット事業」に参加し、他の民間支援団体とともに研修を実施することができた。支援者トレーニングの質を維持し向上するため、トレーナーチームのスキルアップにも取り組んだ。これまで参加者アンケートなどで指摘されていたいくつかの課題についてチームで検討を重ね、専門家のアドバイスも得ながら改善することができた。支援者同士の交流会をオンラインで計画したが、残念ながら開催できなかった。

インターンシッププログラムは大学生5人を受け入れ、社会のあらゆるレベルで女性の参画・エンパワーメント・リーダーシップ養成を目的に行った。2月には、5人のインターン全員で発表会

(報告会)を企画し実施した。インターン期間中、他団体主催のシンポジウム参加や会員がかかわる様々な活動を行うことを通して、DVサバイバー支援や女性が置かれている社会状況について理解を深めた。

これらの事業は、個人、団体、企業からのご寄付や助成金に支えられ実施することができた。

＊「DV被害者支援におけるサバイバー主導の支援普及プロジェクト」はジョンソン・エンド・ジョンソン日本法人グループ JAPAN COMMUNITY IMPACT (JCI)からの助成金により実施。

＊「サバイバー」:本事業では、DVを経験した人を「被害者」ではなく、試練の中を生き延びている力強さを表す「サバイバー」という言葉で表現している。

6. NPO/NGO団体への語学支援

この事業では、東京YWCAの目的と共通する目的を持つNPO/NGOで、資金や人的リソースの得にくい団体が、事業において必要な多言語への翻訳・通訳を必要としているときに、主に英語を対象に語学面からのサポートを無償で行った。

継続して依頼を受けている団体からは、報告書やニュースレター、研修の資料などの翻訳案件が主だった。

今年度は、事業を支えるボランティアでつくる国際語学ボランティアズ(ILV・いるぶ)が事業を立ち上げてから30年を迎えた。10月に記念イベントと懇談会を開催し、懇談会には、翻訳、通訳の依頼元団体の方を招待し、現メンバー、元メンバーが集い、事業に対する意見を聞く機会をもった。

I-1 日本で学ぶ外国人留学生支援事業

家庭交流

「組み合わせ」内訳(人)

会員	20
留学生	20
(留学生2人担当の会員 0)	

「組み合わせ」の留学生内訳(人)

国費生 (文部科学省)	0
日本語学校	3
専門学校	3
大学	8
大学院	6

留学生組み合わせ出身国・地域

国・地域	人数	男性	女性
中国	14	4	10
ベトナム	2	0	2
台湾	2	1	1
インドネシア	1	1	0
中国(香港)	1	0	1
計	20	6	14

「組み合わせ」の会員内訳(人)

新会員	5
2年目以上の会員	15

留学生資金貸与・供与

貸与	前年度より継続返済		0
	新規	長期貸与	1
		短期貸与	0
供与			17

支援事業の年間プログラム

	日にち	参加者数			
		会員	留学生	一般	合計
オンラインミーティング体験会	5/30	15	-	-	15
オンライン勉強会「留学生のストレスとは」	8/1	15	-	-	15
オンライン留学生向け組み合わせ説明会	9/26・30	7	29	-	36
対面の会	11/21	23	26	1	50
オンライン日本語発表会	12/12	42	7	8	57
オンライン講座「やさしいにほんご」	1/23	39	-	2	41
オンライン母の会	2/13	45	-	-	45
新会員のためのオンライン交流会	3/6	15	-	-	15

	開室日数	ボランティア数	相談回数
留学生相談室	-	-	-

	日にち	参加留学生	受け入れ家庭
ショートホームステイ 中止	-		
ホームビジット 中止	-		

	延回数	延ボランティア数		延参加者数		
		会員	一般	会員	留学生	一般外国人
留学生談話室(日本語支援)	38	248	139	-	121	1
日本語個別支援	272	272	0	-	272	-

I-2 留学生助成事業

「留学生の母親」運動奨学金

応募者数	32
支給奨学生内訳[国・地域別]	
中国	2
ベトナム	1
ミャンマー	1
インドネシア	1
フランス	1
計	6

オンラインによる報告会	運営 (会員)	参加者数			
		会員	留学生	一般	合計
第1回奨学生報告会	5	9	6	0	15
第2回奨学生報告会	5	8	8	1	17
奨学生の集い	5	16	6	3	25

「留学生の母親」運動 特別奨学金

応募者数	82
支給奨学生の内訳[国・地域別]	
中国	4
ベトナム	8
韓国	2
ミャンマー	1
マレーシア	1
台湾	1
タイ	1
英国	1
エストニア	1
計	20

I-3 中国帰国者日本語支援事業

日本語サロン

延回数	延ボランティア数	延参加者数
3	21	24

※表における「中止」「延期」の記載は、新型コロナウイルス感染拡大防止によるものです。

I-4 平和をつくるキャンペーン
クリスマス

	日にち	回数	場所	参加者数
青葉のまつり	中止	-		
Peace Maker's Day(Christmas for Peace 2020)	11/28	1	オンライン	23
センタークリスマス(板橋センター)	12/9	1	板橋センター及びオンライン	8
センタークリスマス(国領センター)	中止	-		
センタークリスマス(武蔵野センター)	中止	-		

オンライン・セーフスペース

テーマ	日にち	ファシリテーター	場所	参加者数
「オンライン表現ワークショップ」	10/20	二宮陽子	オンライン	12
「オンライン・セーフスペース」テーマ:健康	12/12	矢田部沙羅	オンライン	13

講演会

テーマ	日にち	講師	場所	参加者数
「伊藤詩織さん講演会」ー女性への暴力に声をあげよう！	3/27	伊藤詩織	オンライン	28

Rise Up! School Visits

テーマ	日にち	ファシリテーター	場所	参加者数
オンラインRise Up! School Visits	8/29	-	オンライン	3

他団体との協力

	配信期間
0422市民クリスマス(オンライン礼拝)	12/25～1/31
0422市民クリスマス(参加教会・団体の日めくり動画)	12/1～1/31

I-5 平和と人権に関する人材育成事業
支援者サロン(DV被害者支援者の交流の場)

延回数	延参加者数
中止	

支援者トレーニング

	回数	参加者数
支援者オンライントレーニング(3日間)	1	24
支援者トレーニング フォローアップ研修	延期	

オーダーメイド研修

依頼元	回数	内容	延受講者数
カリフォルニア臨床心理大学院日本校	1	DV被害者の支援者の支援～さまざまなコミュニティへの介入	30
社会福祉法人東京援護協会東が丘荘	3	職員学習会3回(①支援者のケアについて、②境界線について、③コロナ禍での支援のあり方、アメリカの状況から学ぶ)	31
社会福祉法人 特別区人事・厚生事務組合 社会福祉事業団 宿所提供施設 淀橋荘	2	職員学習会2回(若年女子を取り巻く現状～BONDプロジェクトの活動から学ぶ～)	12

内閣府「DV被害者等セーフティネット強化支援パイロット事業」

内容	回数	延受講者数
「性被害ワンストップセンターひろしまからチーム支援について学ぶ」	1	24
支援者倫理①「境界線」	2	47
支援者倫理②「守秘」	2	31

インターンシップの内容

DV勉強会①	「DVの基礎」(米山麻以子/東京YWCA職員)
DV勉強会②	「DVの子どもへの影響と支援」(菅井りえ/NPO法人女性ネットSaya-Saya)
DV勉強会③	「LGBTQsとDVについて」(ステファン・ラル/NPO法人いくの学園スタッフ、東京YWCA女性と少女の人権課トレーナー)
交流会①	「日本の女性が抱える困難について」(丹羽麻子/独立行政法人国立女性教育会館職員、東京YWCA女性と少女の人権課協議会)
交流会②	「ジェンダーに関する日本YWCAの取り組みについて」(山口慧子/日本YWCA職員)
交流会③	「自然教育とジェンダー」(柳下史織/東京YWCA職員)
交流会④	「RUSVの紹介」(矢田部沙羅/東京YWCA会員、Rise Up! School Visitsプロジェクトメンバー)
その他	NWECフォーラムへの参加、シェアリングの会、等

I-6 NPO/NGO団体への語学支援

依頼団体	件数	依頼内容
公益社団法人Civic Force	3	ニュースレターvol.20・21・22 英訳
認定NPO法人国境なき子どもたち	1	2019年次報告書 英訳
公益社団法人シャンティ国際ボランティア会	1	2019年次報告書 英訳
日本キリスト教協議会(NCC)	1	世界祈禱日スライド説明文 和訳
NPO法人全国女性シェルターネット	1	Away from Violence 英訳
公益財団法人日本YWCA	2	2019年次報告書(英訳)、世界YWCA発行若い女性にむけた冊子(和訳)

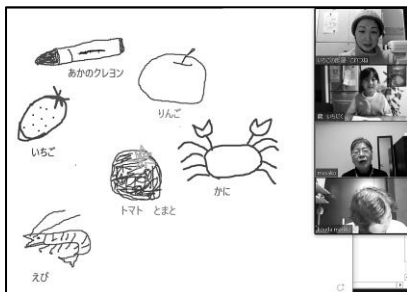
	延回数	延講師数	延参加者数
翻訳研修会	中止		

Ⅱ 青少年育成事業（公益目的事業 事業番号：公2）

この事業は、子どもたちの固有の人格をかけがえのないものとして尊重し、他者と共に生きるグローバルな視点をもった人として全人格的に成長していくことを支援する事業です。



バーチャルキャンプ
ビンゴゲーム“キャンプでやりたいこと！”



日本語・学習支援「いちごの部屋」
幼児の支援—赤いもの、何があるかな？



リーダー養成「里山の自然を体感しよう」
稲わらでクリスマスリース作り

1. 教育キャンプ

東京YWCA野尻キャンプ場（長野県信濃町）にて、7月から8月に幼児から中高生の教育キャンプ、キャンプ場の地元小学生対象の日帰りプログラム、5月・11月・3月にファミリー対象の宿泊自然体験プログラム、12月にスキーキャンプを計画していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために全てのプログラムを中止した。他団体への貸し出しも中止し、キャンプ場全体を閉場した。全てのプログラムを自主的に中止にしたのは、1932年の開場以降初めてのことである。

子どもたちが集い、遊ぶ機会を作るために、オンライン（Zoom）でバーチャルキャンプを4回実施した。リーダーと一緒にビンゴ、絵しりとり、借り物しりとり、などのレクリエーションゲームやキャンプソングを楽しんだ。管理人が撮影したキャンプ場内の動画を見ながらキャンプサイトめぐりをしたり、ドローン映像を見たりした。今まで見たことのない上空からの半島の映像を見たり、子どもが保護者にキャンプ場の説明をするなど、キャンプ場の様子

を知ってもらう機会となった。

12月にはクリスマス飾りを作るプログラムを実施。当初は対面で行う予定だったが、感染状況によりオンラインで開催した。事前に参加者に松ぼっくり、杉、クラフト材料を郵送し、その他、参加者が集めた自然物やビーズなどを使ってツリーやリースなど3種類の作品を作った。

2021年に野尻キャンプ90周年を迎えるにあたり、「東京YWCA野尻キャンプ90周年記念事業」寄付を実施し、多くのご寄付をいただき、キャンプ場の給水設備の入れ替えを実施した。その他、感染症予防のために、メインホールやゆかりハウス玄関に手洗い場を新設することを計画している。

キャンパーもリーダーも野尻に行けない夏となったが、いつもと同じことはできなくても、オンラインを活用して顔を見て時間を共有したり、インスタグラムを開始して、野尻の今を配信したり、つながることを意識して活動した。自然体験は子どもの成長には必要不可欠であり、今後のプログラムの在り方を探る1年であった。

2. 体験学習

子ども会は、子どもクラブ「ももたろう」の登録者減少に伴い、2019年度から休止している。

自然体験は、東京近郊で家族対象の日帰り自然体験プログラムを計画した。おこめシリーズ（5月田植え体験、10月稲刈り体験、11月脱穀体験、1月もちつき体験）、いきものシリーズ（5月ムササビ観察、7月昆虫観察）の計6回を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため全て中止した。田植えと稲刈りは東京YWCAとNPO法人自然環境アカデミー（講師所属団体）のスタッフ、ボランティアで実施した。

青少年水泳は、心身の健全な成長をめざし泳力を養うことを目的に、東京YWCA会館のプールにおいて、ジュニア・ティーンズスイミングとアーティスティックスイミング（以下AS）の講習を実施した。

4月の緊急事態宣言発出により運動施設は5月末まで休業となったため、定期講習は1期中止し、ASは7月より、ジュニア・ティーンズスイミングは9月より開講した。夏の短期講習は、期

間と定員を縮小しクラス数を増やして8月に実施した。学校の水泳授業が中止となり、夏休み期間が縮小される中、子どもたちが水に親しむ貴重な機会となった。春の短期講習は20人定員のところ参加希望が多く抽選となった。

感染防止対策として、子どもの体調チェックや観覧の中止などの協力を保護者にお願ひし、時間差の入退場、更衣室の換気、Web申込の導入などを行った。各クラス共に出席率は高く、体調不良で休む子どもは例年に比べ減少した。おしゃべりをしない等の感染防止のルールを守りながら楽しそうに参加する子どもたちの姿が見られた。外出自粛により身体を動かす機会が減る中、体力の低下や肥満を防止する上でも貴重な機会となった。

3. 学習支援

日本語を母語としない親を持つ子どもたちへの日本語・学習支援「いちごの部屋」は、緊急事態宣言発出に伴い4月、5月は活動を休止しブログで感染予防や行政からの情報を配信した。6月からオンラインと武蔵野センターでの対面支援を並行して行った。活動日は通常と同じく木曜、土曜の週2日実施した。1月に緊急事態宣言が再び発出して、3月まで対面の支援を休止し、オンライン支援のみ継続した。

今年度は登録している子ども18人の内14人の学校の宿題や日本語学習を支援した。内6人が新しく登録した子どもである。地域によって日本語支援事業を中止している場合もあることから、近隣地域以外からの問い合わせがあり、支援を開始したケースもある。支援に参加しなかった子どもたちの理由は、家庭のネットワーク環境が整わない、対面支援を希望するなど、家庭によって様々である。定期的に手紙やEメールを送って様子を聞くなどして、つながり続けるよう努めた。

オンラインでの支援は初めての試みであったが、5月からZoomの使い方を研修するなど委員が積極的に取り組み、学生ボランティアが増加したことで、効果的な体制を整えることができた。子どもたちも最初は不具合への対応など戸惑うこともあったが、すぐに慣れていった。オンライン支援では、子どもたち同士の交流や、工作やすごろく、言葉のカルタなど楽しみながら学ぶ時間を取り入れることが難しい。ボランティアは、画面上で絵を描いたり、クイズを出したり、日本語の学習に飽きてしまわないよう様々な工夫をした。

例年行っている「いちごの部屋キャンプ」や「たのしい科学実験」、その他クリスマス会は実施を見合わせた。卒業お祝い会ができず、代わりに皆でお祝いのメッセージを載せたカードを画面上で作成し子どもに贈った。

ボランティア希望者が多く、支援体験を経て10人が新たに登録した。その内9人はユース世代である。昨年に引き続き、大学の日本語教員養成課程の授業にゲスト講師として委員1人と職員が参加し、活動紹介と日本語支援の実際の現場について話をした。後日、受講した学生数人からもボランティアの申し込みがあった。ICTに強いユースと経験の長い支援者がペアで子どもの支援に入ることで、効果的な支援体制を整えることができ、形を変えて事業を継続することができた。

支援者の研修や交流の時間を持つことが難しかったが、3月に「いちごの部屋」支援者を対象にオンラインで研修をした。日本語教員経験のある委員が日本語支援について話し、グループディスカッションを行った。日頃の活動での疑問点や、オンライン支援をスムーズに行うための新たなアイデアなどを話し合う時間となり、その後の支援に活かすことができている。今後も様々なテーマで実施していきたい。

参加を控えている子どもたちに直接

支援を提供できないことが課題であった。対面支援を再開したいが、今後も状況に応じて、オンライン支援と併用し、子どもたちが安心して参加できる環境を整えていく。

*運営費の一部を「三菱財団×中央共同募金会〜新型コロナウイルス感染下において困窮する人々を支援する〜外国にルーツがある人々への支援活動応援助成事業」助成金を受け実施した。

4. 青少年リーダー養成

当初計画していたボランティア養成講座やキャンプ場整備のワークキャンプは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために中止した。

登録しているキャンプリーダーが集まるオンラインメインホール（オンラインでのリーダー集会）を企画した。近況報告をし、キャンプソングを歌ったり、レクリエーションゲームをしたり、子ども対象のイベントを実施するためにオンラインでできるプログラムを検討した。外部団体の男女共同参画事業にオンラインで参加し、キャンプにおけるジェンダーを考えるワークショップを実施した。

対面プログラムは、自然体験プログラムを実施している八王子滝山里山保全地域でリーダー対象の里山自然体験を実施。里山の自然散策、ツル・葉・木の実などを使ってリース作り、稲わらでしめ縄作り、焚火などを行った。講師の指導の下、植生を観察したり、子どもを対象に事業を実施する場合のリスクマネジメント研修も含めて実施した。

様々な活動をオンラインで実施しているが、例年よりもボランティアの問い合わせが多い。30人が説明会（オンライン）に参加した。

Ⅱ-1 教育キャンプ

*人数は実数

プログラム	日数	参加者数			リーダー・講師数	参加人数合計
		男	女	合計		
教育キャンプ(東京YWCA野尻キャンプ場)						
バーチャルキャンプ	4回	14	12	26	9	35
クリスマスかざりをつくろう！	1回	2	4	6	2	8
年長児～小学2対象「わいわいキャンプ」	中止	-				
小学3～6対象「小学生アドベンチャーキャンプ」	中止	-				
中高生女子対象「中高生ガールズキャンプ」	中止	-				
中高生男女対象「中高生チャレンジキャンプ」	中止	-				
信濃町在住小学1～6対象「野尻っ子デイキャンプ」	中止	-				
「カヌーキャンプ」	中止	-				
ファミリーを対象としたキャンプ						
ファミリーキャンプ	中止	-				
春をみつけにでかけよう	中止	-				
秋をみつけにでかけよう	中止	-				
ベタウリスタの森で雪遊び	中止	-				
教育キャンプ(菅平高原)						
年長児～小学6対象「びよんびよんスキークラブ」	中止	-				
中高生男女対象「中高生スキーキャンプ」	中止	-				
他団体からの委託キャンプ						
*参加者は男女総数						
なし						
野尻キャンプ場を提供しYWCAのキャンプリーダーを派遣して行うキャンプ						
*参加者は男女総数						
なし						

Ⅱ-2 体験学習

子ども会

	延回数	延ボランティア数	延参加者数
子どもクラブもたろう(国領)	-	-	-

親子で楽しむアウトドアライフ

プログラム名	延回数	延参加者数			延リーダー・講師数	延参加人数合計
		男	女	合計		
ムササビを探す高尾山ナイトツアー	中止	-				
どろんこ田植え体験	中止	-				
はっけん! 昆虫のひみつ	中止	-				
みんなでザクザク! 稲刈り体験	中止	-				
脱穀体験&お正月のわら飾りを作ろう	中止	-				
おもちつき&里山であそぼう	中止	-				

青少年水泳

	延回数	延参加者
ジュニアスイミング	72	1307
ジュニアアーティスティックスイミング	23	259
ティーンズスイミング	24	140
ジュニア短期講習(春1期、夏3期)	15	218

Ⅱ－3 学習支援

日本語を母語としない親を持つ子どもとその保護者を対象にした日本語および学習支援

支援した人の数

	人数
子ども(6歳から13歳)	8
〃 (その他の年齢)	6
保護者	3

ボランティア登録数

	登録数(3月末)
ボランティア(会員)	9
〃 (一般)	23

ボランティア研修会

延回数	延講師数	延参加者数
2	2	13

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
登録数	子ども(6歳から13歳)	6	6	6	6	6	6	8	8	8	10	10	11	－
	〃 (その他の年齢)	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	－
実際に支援した子ども	子ども(6歳から13歳)	0	3	3	3	2	2	4	4	4	4	3	3	－
	〃 (その他の年齢)	0	3	4	4	5	5	5	5	5	5	3	5	－
開室日数		0	4	8	8	7	8	9	8	7	8	7	7	81
参加者(延数)	子ども(6歳から13歳)	0	3	10	9	6	8	12	16	13	9	12	16	114
	〃 (その他の年齢)	0	7	16	16	24	17	15	23	15	21	13	12	179
	保護者	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
ボランティア(延数)	会員	0	21	29	27	32	27	23	23	23	29	27	27	288
	一般	0	2	23	22	28	23	28	28	23	17	20	23	237

Ⅱ－4 青少年リーダー養成

	期間・日数	参加者数(宿泊ないものは延数)			リーダー・講師数	参加人数合計
		女	男	合計		
リーダーオリエンテーション	25回	29	5	34	0	34
オンラインメインホール	2回	11	7	18	0	18
里山の自然を体感しよう	1回	6	3	9	2	11
リーダーストレイニング	中止	－				
リーダーストレイニングキャンプ	中止	－				
スキーリーダーストレイニング	中止	－				
冬の野尻キャンプ体験 リーダースキャンプ	中止	－				
春のワークキャンプ ①	中止	－				
春のワークキャンプ ②	中止	－				
あすの野尻キャンプをいっしょにデザインしてみよう！！	中止	－				
合計		46	15	61	2	63

Ⅲ 女性の健康事業 (公益目的事業 事業番号：公3)

この事業は、運動の機会を必要とするすべての女性の心身の健全育成をはかることを目的とする事業です。



肢体不自由者水泳「あひるの会」



ディープウォーターウォーキング



「オンライン健康セミナー「骨盤を整えて美しい姿勢をつくる」」

合同定公園

オンライン健康セミナー

1. 女性の健康づくり

サポートコースでは、体力の維持・向上や生活習慣病の予防などの目標達成に向けて、プールやスタジオ、ジムでの運動を安全に効果的に継続していけるよう、一人ひとりを支援した。4月に緊急事態宣言が発出され、運動施設は2か月間の休場が要請された。参加者は6月から徐々に運動を再開したが、感染を恐れて参加を見合わせる人は多かった。安心して運動できる環境を整えるために、レッスンの定員を縮小し一人ひとりの間隔を開けたり、運動強度の軽減、施設内の消毒、マスク着用やマスクをつけられない場所での会話の制限など、一般社団法人日本フィットネス産業協会の示すガイドラインに沿って感染予防対策の徹底に努めた。外出自粛により身体を動かす機会が減ったことで肥満や体力の低下を感じている人は多く、体成分測定の結果や健康状態を確認しながら運動が継続できるようアドバイスした。サポートコースの退会者は昨年の3割増加し、新規登録者は5割減少し、平均在籍者数は247人と大幅に減少した。

オンライン健康セミナー「骨盤を整えて美しい姿勢をつくる」を1月23日

に実施し、ライブ配信の後1か月間はアーカイブで視聴できるようにした。感染者が増え緊急事態宣言中だったこともあり自宅で視聴しながら運動できる機会となった。これまで健康セミナーは70代以上の参加者が多かったが、オンラインでの視聴が難しい場合も多く、来館できない人のサポートは課題となっている。からだところの健康相談は、感染防止のため2回のみ実施した。

2. 疾患後の女性の健康づくり

乳がん手術後の女性のためのプログラム「アンコア」は、新型コロナウイルス感染防止の為、予定していた2期を中止した。

腰・膝の関節痛の予防、改善のための水中運動（ディープウォーターウォーキング）は 腰や膝などに痛みや不具合を抱える人が、日常生活動作を楽に行えるようになることを目的としている。水中歩行と水深3.5メートルの深さを活用した水中運動を行い、下半身や体幹の筋肉を強化し柔軟性を高めて、日常生活での膝や腰への負担を軽減することを目指した。緊急事態宣言による運動施設の休場により、4月から6月の講習は中止し、7月から3月まで、定

員16人の3クラスを実施した。各クラスの参加者は14人から16人、新規参加者は10人と例年に比べ多かった。参加者の年齢、体力、習熟度などの個人差に配慮しながらプログラムを展開した。在籍者の中には、感染への不安から参加を見合わせる人もいたが、概ね出席率は高く熱心に運動する人が多かった。参加者に記入してもらうアンケートでは、運動効果として「運動後、足や身体が軽くなった。」「階段の昇降が楽になった。」「関節の痛みがやわらいだ。」「姿勢が改善した。」「夜熟睡できた。」があげられている。講習を中止している間に関節の痛みが出たり、体重が増加したり、体力・筋力の低下を感じたりした人は多く、運動できないことで足腰が弱り歩行が困難になるのではないかと不安を感じている人もいた。運動を再開し徐々に体力が回復していく中で、続けることの大切さを感じていることが伺えた。また、身体を動かす気持ちよさ、楽しさを感じている人は多く、以前のようにおしゃべりはできないが、適度な距離を取りながら人と一緒に運動をすることは、精神面にも良い影響を与えているものと思われる。

3. 障がい児・者の健康づくり

肢体不自由者水泳（あひるの会）は、肢体不自由者が水泳を通して喜びと自信を得られるよう、子どもから成人を対象にボランティアがマンツーマンで水泳指導を行った。新型コロナウイルス感染防止のため通年では実施できず、7月から12月及び3月に木曜A・Bコースを各22回、土曜Cコースを12回実施した。開催にあたってはメンバーとボランティアに参加希望を確認し、メンバー1人、ボランティア1人が参加を見送った。検温や介助の際の言葉かけ等の安全対策を検討した。木曜コースは密を避けるため参加者を分散して隔週の参加とし、ボランティアはプールマスクを着装して介助や指導にあたった。来館時に付き添うヘルパーが得られず思うように参加できないメンバーもいた。メンバーからは、外出制限によって肢体不自由者は身体を動かす機会がさらに限られ、体力が著しく低下す

るなど影響が大きいとの声が寄せられた。メンバーの多くは開始時に体力の低下が見られ、水中での運動を続けることは体力を維持する貴重な機会となっている。とくに、夏は学校のプールが開かれなかったため、あひるの会の子どもたちはプールを楽しみに通い水と親しんだ。プールに通い、他のメンバーやボランティアに会い、人とのつながりが保てることも健康の維持につながっていると思われる。

あひるの会を支えるために多くの方々より寄付を頂いた。ご支援に心より感謝したい。

＊この事業では、社会福祉法人東京都共同募金会からの助成金を運営費の一部として実施した。

発達に遅れや偏りのある女児の親子水泳（かめさんくらぶ）は、発達に遅れや偏りのある女児を対象に、プールでお母さんと触れ合いながら水泳を習得することを目指し、子ども一人ひとりの成長の段階や個性に合わせた指導を

行った。新型コロナウイルス感染防止のため、通年では実施できず、7月から12月及び3月の隔週土曜日に年12回の講習を行った。新規参加者2組が加わり、8組を受けとめた。休校や夏のプールの閉鎖等があったため、かめさんくらぶを楽しみに待っていた子どもたちは、休まずに通い出席率は例年に比べ高かった。限られた回数ではあったが、子どもたちは水泳を楽しみながら、それぞれの泳ぎの課題にも挑戦した。外出自粛が続く中、親子一緒にプールでリラックスする機会ともなった。また、感染防止対策として行った検温、お風呂の使用中止、密防止の為の時間差入退場などの新しいルールにも子どもたちは慣れて、スムーズに行うことができた。

アクアサポートは、一人ではプールでの運動が難しい、身体に障がいのある人や高齢者のためのマンツーマンプログラムとして実施した。7月から継続者1人が利用し、週1回のレッスンに熱心に通った。

Ⅲ-1 女性の健康づくり

サポートコース利用者数

延入会者	延退会者	3月末在籍者
33	97	230

健康セミナー

テーマ	参加者数
オンライン健康セミナー 「骨盤を整えて美しい姿勢をつくる」	8

健康相談

	延回数	延利用者数
からだの健康相談	0	0
こころの健康相談	2	2

Ⅲ-2 疾患後の女性の健康づくり

	延回数	延参加者数
乳がん手術後の女性のためのプログラム	中止	-
腰・膝の関節痛の予防、改善のための水中運動	92	1118

Ⅲ-3 障がい児・者の健康づくり

	延回数	延参加者数	延ボランティア数
肢体不自由者水泳（あひるの会）	56	79	96
発達に遅れや偏りのある女児の親子水泳	12	125	8
アクアサポート	31	31	

IV 社会福祉に資する事業（公益目的事業 事業番号：公4）

この事業は、一人ひとりが尊重され、その人らしく生きることのできる社会の実現を目指し、高齢者、障がい児・者とその家族、子育て家庭等の福祉の増進に寄与する事業です。



にじいろ教室陶芸 牛の土鈴作り



まきば保育園で土手すべり



キッズガーデンお買い物プログラム

1. 療育事業

児童発達支援事業所として出発した「東京YWCAキッズガーデン」は、「放課後等デイサービス」との多機能型としては通算18年目、障がい児支援の地域拠点の役割を持つ「児童発達支援センター」としては4年目を迎えた。児童発達支援センターの必須事項である「相談支援」も4年目を迎えて関係機関との連携がさらに多様化し、家族支援の充実を図る努力を続けた。

新型コロナウイルス感染予防対策を徹底し、行政からの要請に応じて、事業を継続した。一人ひとりについてチームで作成する個別支援計画に基づき、ABA（応用行動分析）をベースとする療育を実践し、保護者にも一緒に学んでもらうプログラムを重視した。

前年度に続き、区内私立幼稚園要支援児の行動観察を依頼され、私立幼稚園教諭研修も担当した。

幼稚園保育園との併用児が増える中、職員間の行き来が困難な状況下でも、関係機関との連携や協働に全職員が力を発揮した。依頼に応じて巡回訪問員による幼稚園等への巡回訪問を継続した。

また、板橋区障がい福祉計画の障がい児部門策定委員として向こう5年間の計画策定に参加した。

青年期に入り成人した障がいをもつ人に対しては、NPO法人東京YWCA福祉会が行う就労継続支援B型事業に東京YWCA板橋センターの一部施設を無償貸与し、寄付のほか、職員や会員、ボランティアが活動の制限がある中でも事業に協力、支援を行った。

＊東京YWCAキッズガーデンは運営費の一部を、「板橋区児童発達支援センターサービス推進事業補助金」「板橋区障がい児療育訓練事業補助金」及び「令和2年度東京都新型コロナウイルス感染症緊急包括支援事業（障害分）」より補助を受け実施した。

2. 発達支援相談事業

発達支援相談事業は、心理の専門家による「子ども発達支援室」を実施した。発達に課題やニーズがあると保健センターや幼稚園、保育園等で指摘されたものの、目の前の子どもへの関わりに戸惑いを持つ保護者への、具体的な助言の場として役割を果たした。

3. 発達支援体験事業

板橋センターの発達支援体験事業は、「にじいろ教室」として6年目を迎え、5月以降は休まず開催を続けた。陶芸・ヨガ&ダンス・料理の体験活動を実施、各々の専門家と療育の専門職が協力して活動を実施した。

新型コロナウイルス感染拡大により余暇の過ごし方に制限がある中、今年度は出席率も良く、子どもたちが楽しみに通うことのできる場としての機能も発揮した。

国領センターの発達支援体験事業は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、サッカークリニック、陶芸、音楽療法の回数を減らして実施した。

4. 障がい児家族支援体験事業

障がいのある兄弟姉妹をもつ児童と家族を対象に、障がい児「きょうだいの会」の活動を実施した。実施に当たっては感染予防に努め、感染状況により中止することもあった。

新型コロナウイルスの影響で障がい児のサービスにも利用制限が生じ、家

族がいつも以上にケアに当たっており、
その中で抱える子育ての悩みや思いが
親同士の情報交換の場「いどばた」では
語られた。

**きょうだい児対象のプログラム「き
らりんこ」**では、レジャーや学校行事が
制限され存分に遊ぶ機会がない子ども
たちのため、心を解放し体を動かして
遊ぶ時間を意識的に設けた。ボランテ
ィアのリーダーが活動の目的を理解し
使命感を持って活動を支えてくれた。

**家族単位で参加交流するプログラム
である「ふぁみりんこ」**は、感染予防の
ため実施しなかった。

自然体験と様々な家族の出会いと交
流を目的とした**親子参加型プログラム
「いっぽの会」**は、今年度は実施しなかつた。

5. 障がい児・者介護事業

「障がい児・者介護事業」は、感染対
策を徹底し、居宅介護、重度訪問介護、
移動支援の 3 種類のサービス提供を行
った。障がいの個別ニーズに応え、利用
者の自立と地域での生活継続の実現の
ため役割を果たした。

6. 高齢者介護事業

介護保険法に基づく**「居宅介護支援」**
と**「訪問介護」**を行っている。新型コロ
ナウイルス感染症が猛威を振るう中、
行政からはサービス提供の継続が求め
られるという厳しい1年であった。近隣
介護施設では感染者が出たが、利用者、
職員、ヘルパーには感染者も出ず、休む
ことなくサービス提供を行った。

＊「令和 2 年度東京都新型コロナウイルス感染症緊急包括支援事業（介護分）」より補助を受け実施した。

7. 高齢者電話相談事業

「シニアダイヤル」は、高齢者の「孤
独な時」の身近な一人になることを目
的とした電話相談事業で、25 年目を迎
えた。昨年度の「新人相談員養成講座」
修了者 4 人が新たに相談員として加わ
った。

今年度は、感染予防対策として活動
場所を移動し、開室時間を縮小して活
動した。ボランティアで対応する相談
員が安心して活動できるよう、委員会
や相談員間で安全対策等話し合いなが
ら活動継続に努めた。新型コロナウイルス
感染拡大のために人と接する機会
をもつことが難しくなる中、様々な相
談内容があった。誰かと話ができるこ
とで安心する方も多くあり、相談の場
が必要とされている。相談対応の質的
向上とより良い運営を目的に続けてい
る毎月の研修は相談を受ける上で欠か
せないため、オンラインと対面の両方
で、日頃の電話相談の振り返りを行い
専門家の指導を受けた。公開研修や新
人研修は実施を見合わせた。

8. 介護予防体験事業

「ティーポットサロン」は、高齢者が
地域で交流の場を持ち、豊かな時間を
過ごすことで心身の健康を維持するこ
とを目的としたプログラムだが、今年
度はすべて中止した。

9. 統合保育事業

「東京YWCAまきば保育園」は、ま
きばの保育の質を守りつつ感染対策の
徹底に追われた。休園要請期間は、ま
きばメッセージを配信し子どもたちと家
族をサポートした。ほとんどの行事が
実施できず、運動会とクリスマス会のみを、保護者の理解も得て形態を変え
実施した。

保育園の「地域子育て支援拠点事業」

対象事業である子育て相談支援「たん
ぽぽ広場」は保育園同様の感染対策を
行い、調布市の指示に従って開室した。

10. 読むことが困難な人々への支援事業（DAISY）

**「読むことが困難な人々への支援事
業」**は、今年度もボランティア拡充のた
めに講習会を企画したが、新型コロナ
ウイルス感染状況が厳しい中、開講で
きない講習会もあった。

感染対策をしつつ、音声デジターの
作成は可能な範囲で行い、リスナーに
届けた。「このような状況下でも活動を
継続してくださり有難うございます。」
とリスナーから喜びの言葉を頂き、支
援を継続していく大切さを実感した。

マルチメディアデジターについては、
新たな制作物に取り組むための定期的
な会合を積み重ねることが困難で、活
動を見合わせざるを得なかった。

11. 学童保育事業

調布市から委託を受け、市内で学童
保育 3 か所、放課後子供教室（ユーフ
ォー）3 か所を運営している。

学童クラブは働く保護者を支える育
成の場として、障がい児や要配慮児、ア
レルギー対応児を含め在籍児一人ひと
りにとり第二の家庭となれるよう力を
注いだ。前年の年度末に引き続き学校
休業対応や消毒・密を避けるための工
夫等、努力した。市の学童待機児対策を
受けて、布田小学童では学校空き教室
使用により、70 人から 105 人への定員
増で対応した。

ユーフォーは自由な遊び場として子
どもたちの安心・安全な場になること
を目指し、活動が制限される中でも学
校や学童との連携に努力した。また職
員研修の充実をはかった。学童に続い
て市のユーフォー在り方検討会が発足
し、会議に出席した。

IV-1 療育事業

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
キッズ ガーデン	延日数	17	18	22	21	15	21	21	21	20	16	18	21	231
	延実績利用者数	65	123	339	478	311	406	397	386	404	364	364	387	4024
	延べ実習生人数	0	0	0	0	10	1	0	0	0	0	0	18	29
シマウマ	延日数	2	2	4	4	4	4	4	2	4	4	3	4	41
	延実績利用者数	21	19	26	26	47	43	46	24	53	47	44	64	460
	延べ実習生人数	0	0	0	3	9	1	0	1	1	0	0	0	15

* キッズガーデン：障がい児（未就学児）児童発達支援事業。 シマウマ：障がいのある小中高生のための放課後等デイサービス（土曜）

	延回数	延参加者数		延回数	延参加者数
保護者会（キッズガーデン/シマウマ）	6	40	統合保育研修会	1	23
保護者勉強会（キッズガーデン）	8	15	連携訪問	3	3
保護者参加プログラム	15	132			

IV-2 発達支援相談事業

児童発達支援センター機能

相談支援	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
障害児支援利用計画	77	77	77	77	77	77	85	85	85	85	85	85	972
サービス等利用計画	29	10	12	43	3	10	5	16	11	6	6	12	163
契約数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
請求数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	延回数	延件数
子ども発達支援室（板橋）	8	24
子ども発達支援巡回相談（板橋）	13	-
OT相談室（板橋）	-	-
療育個別相談（国領）	-	-
療育グループ（国領）	-	-

IV-3 発達支援体験事業

障がいのある子どものための体験学習

	延回数	延参加者数
陶芸（小学生以上対象）（国領）	6	12
音楽療法（幼児から中学生）（国領）	6	15
サッカークリニック 1（小学生）（国領）	5	25
サッカークリニック 2（中学生から）（国領）	5	29
カシオペア（集団生活スキル 小学生～中学生）（国領）	-	-
サポートプログラムにじいろ教室（陶芸）（板橋）	12	125
サポートプログラムにじいろ教室（ダンス）（板橋）	12	63
サポートプログラムにじいろ教室（料理）（板橋）	4	37

IV-4 障がい児家族支援体験事業

	延回数	延ボランティア数	延参加者数
家族サポート（きょうだいの会 こどもの会 きらりんこ）	3	24	55
家族サポート（きょうだいの会 お母さんのためのいどばた）	7	6	23
家族サポート（きょうだいの会 家族のためのふあみりんこ） 中止	-	-	-
親子参加型の自然体験プログラム（いっぽの会）	-	-	-

IV-5 障がい児・者介護事業

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
訪問介護	在籍利用者数	16	16	16	16	16	17	18	19	19	19	19	20	211
	実績利用者数	11	12	13	13	13	14	13	17	16	15	14	17	168
訪問回数	居宅介護	52	46	56	55	49	55	63	57	57	49	43	62	644
	重度訪問介護	16	18	18	23	17	18	18	15	17	14	16	17	207
	移動支援	14	13	18	18	15	23	26	26	26	20	20	21	240
	合計	82	77	92	96	81	96	107	98	100	83	79	100	1,091
訪問時間	居宅介護	88.50	76.50	95.50	91.50	83.50	93.50	102.50	93.00	95.25	82.50	68.25	84.25	1054.75
	重度訪問介護	21.50	24.00	24.50	30.00	23.25	24.25	24.25	20.50	23.00	19.00	21.50	22.50	278.25
	移動支援	16.50	24.50	32.00	32.50	31.00	37.50	40.00	43.00	45.50	27.00	27.00	32.00	388.50
	合計	126.50	125.00	152.00	154.00	137.75	155.25	166.75	156.50	163.75	128.50	116.75	138.75	1721.50

IV-6 高齢者介護事業

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
居宅介護支援	在籍利用者数	36	35	35	34	33	33	31	30	28	27	27	27	376
	利用実績数	34	34	34	34	31	31	30	28	27	25	27	27	362
	認定調査	1	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	4
訪問介護	在籍利用者数	19	21	21	20	20	23	22	23	23	24	25	24	265
	実績利用者数	19	20	20	19	20	23	22	23	23	24	24	24	261
訪問回数	要介護1～5	45	43	44	44	43	51	58	53	57	53	54	75	620
	要支援1～2	67	62	64	71	58	76	76	74	75	64	71	84	842
	自由契約	5	8	8	6	8	8	8	7	9	7	7	6	87
	合計	117	113	116	121	109	135	142	134	141	124	132	165	1,549
訪問時間	要介護1～5	43.5	41.5	43.5	42.25	42	43.5	59.25	45	48.75	45	52.25	65.25	571.75
	要支援1～2	64	58.75	60.75	67.5	56	68.5	69.75	68	69.75	60.75	66	80.25	790
	自由契約	5	9.25	8.5	6.5	8.75	12.25	10.5	7.25	11.5	8.5	7.75	7.5	103.25
	合計	112.5	109.5	112.75	116.25	106.75	124.25	139.5	120.25	130	114.25	126	153	1,465

IV-7 高齢者電話相談事業

シニアダイヤル（孤独なときの身近な相談相手としての電話相談）	
延開室日数	215
延相談員数	191
年間相談件数	1025

IV-8 介護予防体験事業

	延回数	延参加者数
ティーボットサロン（地域に開かれた交流の場） 中止	-	

IV-9 統合保育事業

まきば保育園（国領）	年齢	在籍者数(3月末)
	0歳	9
	1歳	16
	2歳	16
	3歳	19
	4歳	19
	5歳	19

※実習生受け入れ（年間延）120人

IV-10 読むことが困難な人々への支援事業（DAISY）

登録ボランティア数	28
-----------	----

ボランティア講習会

講座名	回数	講座日数	講師人数(アシスタント含)	延参加者数
音訳講習会(基礎編)	1	4日	4	41
音声デジタイズ制作講習会(基礎編) 中止	-			
マルチメディアデジタイズ制作講習会	1	2日	11	20

IV-11 学童保育事業

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
わいわい学童クラブ	在籍数(定員70)	70	68	69	68	64	64	60	60	60	57	54	53	747
	開所日数	25	23	26	25	25	24	27	23	24	23	22	26	293
	延べ利用者数	278	46	845	950	706	840	807	716	725	646	645	781	7985
染地小学童クラブ	在籍数(定員50)	47	48	48	47	46	47	42	40	39	38	36	36	514
	開所日数	23	23	26	25	25	24	27	23	24	23	22	26	291
	延べ利用者数	241	73	292	766	553	710	738	603	608	498	492	616	6190
布田小学童クラブ	在籍数(定員105)	101	102	104	104	104	104	104	105	105	105	105	105	1248
	開所日数	23	23	26	25	25	24	27	23	24	23	22	26	291
	延べ利用者数	591	84	1767	1859	1473	1788	1955	1668	1714	1537	1565	1993	17994
杉森小ユフォー	開所日数	21	18	24	25	24	24	27	23	24	23	22	26	281
	延べ利用者数	85	4	336	506	365	366	331	359	348	199	240	330	3469
染地小ユフォー	開所日数	21	18	24	25	25	24	26	23	24	23	22	26	281
	延べ利用者数	27	0	130	209	104	158	180	216	188	113	117	144	1586
布田小ユフォー	開所日数	21	18	24	25	24	24	26	23	24	23	22	26	280
	延べ利用者数	47	0	178	375	204	387	311	253	228	147	193	208	2531

V 非営利機関・団体への施設貸与事業

(公益目的事業 事業番号：公5)

この事業は、この法人の目的と共通性のある目的をもつ非営利の機関及び団体にこの法人が所有する施設を貸与する事業です。

東京YWCA会館 2, 3 階の貸室 14 室を 11 団体に年間貸与した。時間貸し会議室は、新型コロナウイルスの感染拡大で、利用団体数は昨年比減となった。

非営利機関・団体優先フロア(賃貸契約)

貸与先団体数	11 (14 室)
--------	-----------

貸し会議室(時間貸し)

貸与先団体数	8	貸与件数	297
--------	---	------	-----

VI 東日本大震災被災者支援事業 (公益目的事業共通)

1. 放射能被害への支援

放射能の値が高い地域に住む子どもを対象とした転地保養(リフレッシュ)プログラムは、2016 年度から東京 YWCA 野尻キャンプ場ゆかりハウスで実施する一般向けキャンプに福島枠をつくり、福島県内の中間支援団体を通して参加者を募集している。今年度も、いわき市の NPO 法人ままは一とが運営する重症心身障がい児デイサービス「どリーむず」の利用者ときょうだい児・家族を 7 月から 8 月にかけてのキャンプに招待する準備を進めていたが、新型コロナウイルスに対する万全の対策をキャンプ場でとることがむずかしいと判断し、夏の実施は見合わせ、春まで様子を見ることになった。5 月下旬の緊急事態宣言明けに感染者数は一旦減ったが、夏に向けて上昇、秋に減少したことから、春のキャンプの実施に可能性が出てきたが、12 月以降、感染者数が上昇、その後下がりがきらなくなり春も見送ることを決めた。残念ながら今年度は 1 回も実施することはできなかった。

2. 被災地支援

2 月 13 日の深夜に福島県沖を震源とする震度 6 強の地震が東北地方を中心にあり、福島県新地町が断水や屋根瓦の落下など大きな被害を受けた。日本 YWCA や地域 YWCA と連携し、支援の申し出を行った。幸い国・地方自治体からの協力で早い段階で復旧が進んだため、YWCA から物資の提供等は行わなかった。

3. 放射能被害により東京近郊に避難している人への支援

東京近郊に避難している人を対象とした広域お茶会等の実施は、例年、東京 YWCA 東日本大震災支援バザーの会場に広域避難者の交流のコーナーをつくり、災害復興まちづくり支援機構の協力で弁護士による専門家相談と福島県職員による情報提供を実施してきたが、バザー開催を 1 年延期したことから、今年度は実施しなかった。また、オブザーバーで参加している都内ボランティアセンター、支援団体、被災県相談員、福島県、東京都でつくる広域避難者支援

連絡会 in 東京は、これまで集会形式で行ってきた避難者ミーティングや交流会ができなくなった。高齢化している避難者は、感染を恐れ、必要以外の外出は一切しない状態で、孤立化が顕著になった。オンラインも難しく、ようやく 3 月に、オンラインと対面で交流会を開くことができた。恐る恐る出てきた人も、笑顔がもどり、オンライン越しであっても人と会うことの大切さが感じられた。

4. 啓発

風化を防ぐプログラムとして、3 月に福島の高校教諭で写真家の赤城修司さんを招き、「震災から 10 年」をどのように感じられているか伺う会を 2 年前から準備してきたが、延期することを決めた。お会いすることで伺えることがあるとプロジェクトでは考え、オンラインでの実施は企画しなかった。

第 10 回東日本大震災支援バザーは、最終回として 5 月 30 日に開催することを決めていたが、1 年延期し 2021 年 7 月 3 日の開催を目指すことを決めた。

関係機関への協力依頼は3月に始める必要があり、実行委員会で検討した結果、来場者、ボランティアの安全を確保し実施することが難しいこと、これまでのバザーの収益と個人、団体、企業のご寄付によって、バザーの目的である福島子どもたちをキャンプに招待する事業は続けられる目途がついたことから、第10回（最終回）は中止し、支援バザーを終了することを決めた。

東京YWCA 東日本大震災被災者支援事業は、東京YWCAのすべての公益目的事業によって実施する事業として、事業変更しないまま事業を続けてきた。こ

の間、2017年熊本地震、2019年10月の台風19号被害など、大規模災害が続いている。その都度、既存の事業の範囲内で支援を行ってきたが、災害の緊急性に対応することは難しかった。東日本大震災被災者支援プロジェクトは、東日本大震災の枠を超え、日本YWCAと連携し、災害支援を行うため、事業変更が必要であるとの結論を出し、3月理事会で事業変更に取り掛かることが決まった。2011年11月に発足した東日本大震災被災者支援プロジェクトは、2020年度をもって解散し、今後の東日本大震災被災者支援は、新しい事業と組織に

引き継ぐ。新たな事業は、東日本大震災被災者支援事業の10年間で培った人材と、ネットワークを元に、日本YWCAと連携し、国内外における紛争・災害に対し、紛争地及び被災地での女性と子どもの安全・安心を守るため、支援物資や支援金の提供、人的支援を行うほか、平時より紛争地・被災地での女性や子どもへの暴力や差別、偏見をなくすための啓発活動の実施や自治体、関係団体等との災害時ネットワークの強化を図り、災害時においては、連携・協働して女性と子どもの安全・安心のためのプログラムを実施していくことになる。

福島子どもたちをキャンプに呼ぼう(夏)	中止
福島子どもたちをキャンプに呼ぼう(秋)	中止
第10回東京YWCA 東日本大震災支援バザー	延期
ひと味違うドイツ文学講座	延期
震災から10年 ぼくの見た福島	延期

VII 収益事業および共益的な事業

1. 不動産賃貸事業

東京YWCA会館のテナントは満室で推移した。貸し会議室は、新型コロナウイルスの影響でキャンセルが相次いだ。月極駐車場は9割超の稼働率であった。

2. フィットネスクラブ事業

緊急事態宣言を受け、4、5月は休業、1月から3月は夜間の営業時間を短縮した。メンバー在籍数が前年比で2割以上減少したこと、およびスクール休講に伴う返金の発生により、大幅な減収と

なった。秋以降メンバー以外を対象に、プールが空いている時間に利用できるサービスを開始した。自然災害等に備え、利用者に向けた携帯電話のメール配信サービスを導入した。

3. 語学事業及び 教養講座事業

休止した。

4. 販売事業

東京YWCA 会館に自動販売機と有料コピー機を設置してサービスを提供した。

5. 理解普及事業 (会員グループ)

会員グループは、この法人の会員と将来的な会員が、法人の目的と事業に対する理解を深めることを目的に、語学や聖書の学び、奉仕活動など、49のグループが活動している。新型コロナウイルスの感染拡大の影響で対面での活動が困難となり、秋以降オンラインでの活動を始めたところもあったが、休止したグループも多かった。

Ⅶ-1 不動産賃貸事業

不動産賃貸(賃貸契約)

貸与先団体数	6(8室)
--------	-------

貸し会議室(時間貸し)

貸与先団体数	4
貸与件数	10

ゆかりハウス

貸与先団体数	0
貸与件数	0

Ⅶ-2 フィットネスクラブ事業

	延入会者	延退会者	3月末在籍数
フリーコースメンバー	52	145	300
法人メンバー	0	0	1

スクール

クラス	年間実施回数	累計参加者数	クラス	年間実施回数	累計参加者数
バーアスティエ&バレエ入門	30	147	スイミング フラミンゴ(月)	30	392
バレエ初級	23	160	スイミング カモメ(水)	30	287
身体とココロのコンディショニング	30	291	水中ウォーキングM(水1)	30	453
リンパビクス	30	152	水中ウォーキングA(水2)	30	520
転倒予防エクササイズ	30	238	水中ウォーキングB(月)	30	249
身体調整エクササイズ	31	272	水中ウォーキングC(土)	30	243
タイチーダンス	31	238	健康水泳	31	109
スイミング初級A(水)	30	208	ダイビング	20	69
スイミング初級B(火)	24	115	日本泳法基礎	31	301
スイミング中級A(金)	30	273	日本泳法A	31	284
スイミング中級B(木)	30	317	日本泳法B	30	98
スイミング中～上級A(月)	30	225	アーティスティックスイミングA	30	312
スイミング中～上級B(水)	24	160	アーティスティックスイミングB	27	444
スイミング上級(火)	30	504	アーティスティックスイミングC	30	333
			スイミング4回講習	16	123
パーソナルレッスン	延参加者数				
スタジオマンツーマンレッスン	263				
プールプライベートレッスン	153				

Ⅶ-5 会員グループ(理解普及事業)

グループ 登録数	グループ登録者数		
	会員	一般	合計
49	209	51	260

(2021年3月末現在)

VIII その他

VIII-1 会員数

	人数
成人会員（18歳以上の女性）	661
年少会員（18歳未満の女性）	2
成人会友（18歳以上の男性）	25
年少会友（18歳未満の男性）	1
賛助会員	24
合計	713

（2021年3月末現在）

VIII-2 職員数

常勤職員（2021年3月末現在）115人

VIII-3 事業に参加したボランティア

事業名	ボランティア延人数	ボランティア延時間
I 平和と人権事業		
事業部共通事項	16	29.5
1 日本で学ぶ外国人留学生支援事業	1123	1869
2 留学生助成事業	85	199.5
3 中国帰国者日本語支援事業	28	39
4 平和をつくるキャンペーン事業	90	147.5
5 平和と人権に関する人材育成事業	24	48
6 NPO/NGO 団体への語学支援	113	217.5
	1479	2550
II 青少年育成事業		
1 教育キャンプ	48	83.5
2 体験学習	0	0
3 学習支援	591	1654.5
4 青少年リーダー養成	0	0
	639	1738
III 女性の健康事業		
3 障がい児・者の健康づくり	89	133.5
IV 社会福祉に資する事業		
7 高齢者電話相談事業	385	1104
10 読むことが困難な人々への支援事業	28	63
VI 東日本大震災被災者支援		
東日本大震災被災者支援事業	43	86
合計	2663	5674.5

VIII-4 東京YWCA 新聞

発行実績：年10回、毎号1300部

対象：東京YWCA会員、地域YWCA、関係団体など

体裁：A4版4ページ

1 面主張記事

4月号 NO. 758 イースターメッセージ 倒れても大丈夫
（吉岡康子）

5月号 休刊（新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言による事務所閉室のため）

6月号 NO. 759 憲法記念日に思う 個の尊厳を奪われた存在が象徴であるということ（齊藤小百合）

7月号 NO. 760 地球温暖化と私たち（山内恭）

8月号 NO. 761 原爆投下75周年の広島に身を置いて（湊晶子）

10月号 NO. 762 拡大ひととき礼拝 平和を実現する人々は、幸いである（マタイによる福音書5章9節）
（ランデス ハル）

11月号 NO. 763 コロナ禍でDV（ドメスティック・バイオレンス）を引き起こしているものとは
（丹羽麻子）

12月号 NO. 764 クリスマスメッセージ マリアの歌
（柳下明子）

1月号 NO. 765 年頭にあたって それでも心を高く
（川戸れい子）

2月号 NO. 766 会員総会議案説明 平和を実現するために今、できること（運営委員会）

号外：選挙公報

3月号 NO. 767 「留学生の母親」運動 現在・過去・未来（八星恵子）

VIII-5 財団広報紙

発行実績：年2回（4、10月）毎号2200部

対象：一般

体裁：A4版4ページ

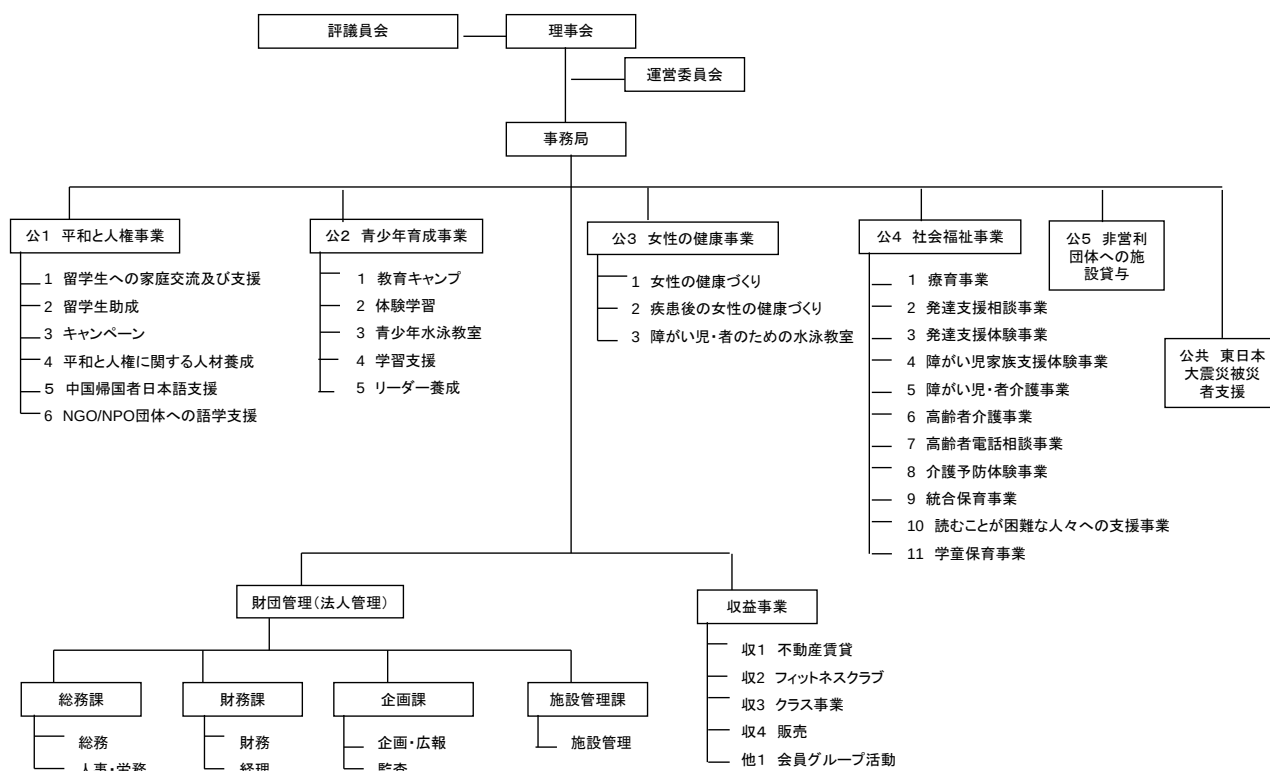
特集：vol. 19 日本語・学習支援「いちごの部屋」（青少年育成事業）

vol. 20 新型コロナウイルス感染拡大による事業活動への影響

VIII-6 世界YWCA・日本YWCA関連の集会および派遣

	日にち
世界YWCAデー集会	新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言により中止
YMCA/YWCA合同祈禱週における 東京YMCA/在日本韓国YMCA/東京YWCA合同祈禱週礼拝	2020年11月12日 （会場・オンライン同時開催）

■2020 年度 公益財団法人東京YWCA 組織図



■理事・監事 (2021/3/31 現在)

代表理事 川戸れい子

常務理事 能美祐子

理事 柴田幸子 島崎真奈美 寺岡祥子 新美まり 西銘春香 林祥子

監事 八木昭子 横川民子

■評議員 (2021/3/31 現在)

岩村太郎 及川津紀子 杉本策子 高橋りえ子 新田和子 東平瑞江

細貝順子 本田真也 町田洋子 実生律子 桃井和馬 吉岡光人

■賛助会員・寄付者（敬称略・五十音順）

賛助会員

（個人・団体）

石橋さなえ 市川寛 内山康一 浦野和一 岡崎公子 岡田正義 忍足直子 活水学院同窓会 神崎典子 郡恭子
東方久男 新美まり 蜂谷祐一郎 原田國子 藤井野百合 別府迪子 細谷ひろみ 堀内香代子 本田真也
松永淑子 三島次郎 南小柿祐子 三宅香織 宮下まり

寄付者

（個人）

相澤加壽子 赤川恵子 秋田みどり 浅原由美 阿部照実 飯田芳子 飯野敏子 五十畑誠子 池上三喜子
池田ゆう子 池本英子 石川照子 石川松子 石川玲子 石田英理香 石藤治子 石橋玲子 石丸美子 石渡能子
市川順子 市川寛 伊藤龍磨 乾康子 犬塚靖子 井上崇 井上信子 伊深昭子 岩城紀代子 岩木俊一 岩城由耶
内山明見 内山康一 内山伸子 内山治子 内山佳子 宇津陽子 江尻美穂子 榎戸涼子 榎本祥子 榎本征子
遠藤洋子 及川津紀子 大賀優子 大久保智子 大崎美子 大里喜美子 太田尚子 大瀧泰代 大谷翠 大塚優子
大野加代子 大野京子 大野肇 大庭貞江 岡田康子 沖加奈 小倉紀和美 貝森純子 柿元恵美子 笠嶋多希子
柏木妙子 加藤知子 加藤みち代 金井彰 金井淑子 金沢洋子 金関昌幸 金森亜希子 加納もも 鎌田早苗
神谷明宏 神谷候子 川浦弥生 川上雅子 川戸れい子 菊池俊夫 岸貴美子 木村祥子 木村濤子 京野洋子
葛生禎子 楠本道子 楠山涛子 熊谷麻子 栗原清子 栗原美津枝 黒田美佐子 小池えりか 河野弘美 幸福花江
香山玲子 郡恭子 小暮恵子 小島祐嘉 小寺かをる 後藤曉子 小林秀雄 小林素子 小林ヤス子 小村明子
是松玲子 近藤充 今野菊代 斎賀朝子 齋藤知弘 齋藤百合子 斎藤喜子 榊原紀恵子 坂口和子 佐藤朝子
佐藤清子 佐藤拓 佐藤浩子 佐藤誠 佐藤マリ子 佐藤美代子 佐藤ゆみ子 鮫島郁子 重川利枝 芝崎良子
柴田慶子 柴田幸子 島崎真奈美 白井栄子 白幡ゆき子 杉原正 杉本陽子 鈴木俊子 鈴木誠 鈴木良男
鈴木伶子 須田永子 須藤絵里子 住田啓子 清宮幸子 関川野枝 高月三世子 高橋和子 高橋伸 高橋富子
高橋寛子 高橋博 高橋りえ子 高橋礼子 田口伸 田口理架子 武石朋子 田坂紗久子 田中祥子 田中孝代
田中英夫 谷山久美子 田和榮 塚本秀子 辻井夏子 鶴長美樹子 手島千景 戸井眞澄 東方久男 土岐尚子
鳥羽和江 鳥羽恵 土肥絹恵 富内雄二 柄田茂 外山真理 鳥海百合子 仲澤純代 中澤典子 中西トク子
中野キミ子 中野瑠理子 中村法子 中村みゆき 中山治子 中山真 成井幸子 新美まり 仁木三智子 西文子
西川邦子 西田和子 西田操子 西成田知子 新田和子 野口朝子 野崎斐子 野崎弓央 乗松恭子 橋口寛子
橋本匡子 蓮沼菖子 長谷川恭子 初野晴子 早川文雄 東平瑞江 樋口克子 日暮時子 久田和美 平野久美子
平野恵子 風當恵津子 福島加代子 福田育代 藤田智 筆谷越子 古沢昭子 別府迪子 星野弘子 細川敦子
細川武 細谷ひろみ 堀町子 堀池真一 堀内香代子 堀江順子 堀口廣司 間霜秀明 町田洋子 町山文子
松浦靖子 松木真奈 松下起子 松田明美 松永淑子 松山恵一 丸山克枝 三浦宮吉 三島次郎 三嶋蓉子
水上元子 三井公子 南美樹 峯麻以子 実生律子 宮城順子 三宅文子 宮下まり 牟田晴美 邑田明美
毛利亮子 望田幸 望月和子 望月久子 森恵津子 森久子 八木敏子 矢崎卓子 安江いずみ 安田亨子
保田範子 八星恵子 山内百合絵 山崎郁子 山田美千留 山高万寿子 湯田はるみ 湯田嘉彦 横川明夫
吉岡郁子 吉岡喜人 吉村友子 吉村友子 依田良子 米田淳紀 和田博子 ほか匿名 85 人

(企業・団体)

お菓子つくりたい 公益社団法人 CivicForce 紗羅の会 シスコシステムズ合同会社
肢体不自由者水泳を支える会 七彩会 全国友の会 東京YWCAキッズガーデン親の会
東京YWCA専門学校同窓会 東洋英和女学院中学部高等部母の会 東洋英和女学院中高部宗教委員会
東洋英和女学院同窓会 2019 キッズガーデンひまわり Gr 有志
日本キリスト教協議会女性委員会世界祈祷日事務所 「留学生の母親」運動グループまどか
「留学生の母親」運動工房「ひだまり」 「留学生の母親」運動城南地域の会 「留学生の母親」運動を支える会
和田屋 その他有志

貸借対照表
2021年3月31日現在

公益財団法人東京YWCA

(単位：円)

科目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	436,908,105	407,879,019	29,029,086
未収金	19,080,776	19,745,643	△ 664,867
商品	242,259	186,634	55,625
前払費用	176,000	176,000	0
前払金	3,089,973	3,372,146	△ 282,173
立替金	0	255,380	△ 255,380
流動資産合計	459,497,113	431,614,822	27,882,291
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
基本土地	86,917,089	86,917,089	0
基本建物	767,227,992	803,380,085	△ 36,152,093
基本建物付属設備	1,325,465	1,737,650	△ 412,185
基本財産預金	141,000,000	141,000,000	0
基本財産合計	996,470,546	1,033,034,824	△ 36,564,278
(2) 特定資産			
建物	150,654,009	155,439,445	△ 4,785,436
建物付属設備	54,055,342	60,275,656	△ 6,220,314
構築物	6,397,732	7,033,246	△ 635,514
什器備品	3,713,546	2,329,836	1,383,710
女性の健康サポート特定資産	15,000,000	15,000,000	0
留学生基金特定資産	26,475,423	26,475,423	0
留学生資金特定資産	3,501,832	3,690,202	△ 188,370
留学生奨学金特定資産	5,549,682	8,096,100	△ 2,546,418
会員サポート特定資産	800,000	800,000	0
武蔵野拠点運営費積立資産	30,969,609	33,411,105	△ 2,441,496
介護職員研修特定資産	768,947	768,947	0
中国帰国者日本語教室特定資産	1,569,188	1,569,188	0
福島の子どもたちを東京YWCAのキャンプに呼ぼう特定資産	1,557,457	0	1,557,457
預り敷金積立資産	164,400,510	164,400,510	0
フィットネス預り保証金引当資産	3,600,000	3,900,000	△ 300,000
野外環境教育預り保証金引当資産	9,400,000	9,400,000	0
会館整備費積立資産	172,679,801	172,679,801	0
東京YWCA東日本大震災被災者支援積立資産	0	1,458,515	△ 1,458,515
会館修繕費積立資産	61,814,620	9,910,620	51,904,000
板橋センター増改築特定資産	27,982,050	27,982,050	0
保育園施設・設備整備特定資産	60,000,000	60,000,000	0
空調改修工事積立資産	150,000,000	150,000,000	0
プール設備改修工事積立資産	19,000,000	19,000,000	0
デジタルアーカイブ積立資産	826,801	1,041,181	△ 214,380
フィットネスクラブ施設整備特定資産	15,712,400	15,712,400	0
女性と少女のための人材育成特定資産	10,200,000	10,200,000	0
教育キャンプ実施と施設整備特定資産	41,000,000	41,000,000	0
プール設備整備特定資産	3,964,091	3,964,091	0
療育事業備品等設備整備特定資産	7,245,000	9,500,000	△ 2,255,000
特定資産合計	1,048,838,040	1,015,038,316	33,799,724
(3) その他固定資産			
土地	1,993,095	1,993,095	0
建物	180,942,769	188,184,968	△ 7,242,199
建物付属設備	226,032,920	236,855,647	△ 10,822,727

(単位：円)

科目	当年度	前年度	増減
構築物	2,982,407	3,541,746	△ 559,339
車両運搬具	2	2	0
什器備品	1,889,446	2,500,645	△ 611,199
ソフトウェア	810,353	1,635,193	△ 824,840
図書	1,761,120	1,761,120	0
電話加入権	2,395,068	2,395,068	0
差入保証金	50,000	50,000	0
差入敷金	800,000	800,000	0
出資金	30,000	30,000	0
留学生貸付金	100,000	0	100,000
その他固定資産合計	419,787,180	439,747,484	△ 19,960,304
固定資産合計	2,465,095,766	2,487,820,624	△ 22,724,858
資産合計	2,924,592,879	2,919,435,446	5,157,433
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	29,261,020	26,152,973	3,108,047
未払法人税等	17,606,100	16,800,000	806,100
未払消費税等	19,372,700	4,095,475	15,277,225
前受金	5,706,450	5,690,350	16,100
預り金	2,451,587	2,423,540	28,047
1年内返済予定長期借入金	2,760,000	2,760,000	0
流動負債合計	77,157,857	57,922,338	19,235,519
2. 固定負債			
長期借入金	29,210,000	31,970,000	△ 2,760,000
預り保証金	13,000,000	13,300,000	△ 300,000
預り敷金	164,400,510	164,400,510	0
固定負債合計	206,610,510	209,670,510	△ 3,060,000
負債合計	283,768,367	267,592,848	16,175,519
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
寄付金	413,327,126	426,827,518	△ 13,500,392
補助金・助成金	120,826,967	126,184,946	△ 5,357,979
指定正味財産合計	534,154,093	553,012,464	△ 18,858,371
(うち基本財産への充当額)	(159,001,688)	(162,398,337)	(△3,396,649)
(うち特定資産への充当額)	(375,152,405)	(390,614,127)	(△15,461,722)
2. 一般正味財産	2,106,670,419	2,098,830,134	7,840,285
(うち基本財産への充当額)	(837,468,858)	(870,636,487)	(△33,167,629)
(うち特定資産への充当額)	(496,285,125)	(446,723,679)	(49,561,446)
正味財産合計	2,640,824,512	2,651,842,598	△ 11,018,086
負債及び正味財産合計	2,924,592,879	2,919,435,446	5,157,433

正味財産増減計算書

2020年4月1日から2021年3月31日

公益財団法人東京YWCA

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
①基本財産運用益	14,023	14,013	10
基本財産受取利息	14,023	14,013	10
②特定資産運用益	10,404	19,750	△ 9,346
特定資産受取利息	4,496	13,247	△ 8,751
特定資産有価証券利息	1,000	1,000	0
特定資産受取利息振替額	4,908	5,503	△ 595
③受取会費	3,855,800	4,112,900	△ 257,100
成人受取会費	3,455,300	3,657,900	△ 202,600
年少会員受取会費	4,000	2,000	2,000
成人会友受取会費	125,000	133,000	△ 8,000
年少会友受取会費	1,500	0	1,500
賛助会員受取会費	270,000	320,000	△ 50,000
④事業収益	516,827,991	574,191,709	△ 57,363,718
登録費収益	3,042,600	3,756,870	△ 714,270
授業料・講習料収益	22,269,790	54,256,360	△ 31,986,570
フィットネス会費収益	65,077,881	94,645,060	△ 29,567,179
利用料収益	9,430,760	10,780,180	△ 1,349,420
教材費収益	0	49,828	△ 49,828
手数料収益	199,841	276,140	△ 76,299
売上収益	650,915	1,046,857	△ 395,942
施設設備利用料収益	8,310,486	8,358,058	△ 47,572
賃貸料収益	323,553,523	318,709,757	4,843,766
障がい児者支援費収益	73,850,662	70,655,080	3,195,582
障がい児者利用負担金収益（支援）	891,160	2,211,623	△ 1,320,463
相談料収益	97,500	276,500	△ 179,000
高齢者介護報酬収益	8,574,011	8,356,547	217,464
高齢者利用負担金収益	856,862	707,969	148,893
高齢者受託収益	22,000	104,880	△ 82,880
⑤受取補助金等	367,555,074	348,368,870	19,186,204
受取国庫補助金助成金	200,000	200,000	0
受取地方補助金 助成金	113,996,038	108,811,539	5,184,499
受取民間補助金助成金	4,343,948	3,593,877	750,071
受取受託収益	243,657,109	229,822,620	13,834,489
受取補助金等振替額	5,357,979	5,940,834	△ 582,855
⑥受取寄付金	25,067,087	20,590,879	4,476,208
受取寄付金	8,766,054	8,017,599	748,455
受取寄付金振替額	16,301,033	12,573,280	3,727,753
⑦雑収益	4,532,692	6,891,584	△ 2,358,892
受取利息	11,175	11,086	89
その他雑収益	4,409,517	6,744,998	△ 2,335,481
受入研修費収益	112,000	134,000	△ 22,000
利用者等外給食費収益	0	1,500	△ 1,500
経常収益計	922,779,071	954,189,705	△ 31,410,634
(2) 経常費用			
①事業費	873,711,280	918,055,886	△ 44,344,606
職員給料手当	104,825,640	109,001,576	△ 4,175,936
職員通勤手当	3,685,313	3,873,969	△ 188,656
職員法定福利費	16,989,820	17,307,216	△ 317,396

正味財産増減計算書

2020年4月1日から2021年3月31日

公益財団法人東京YWCA

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
職員中退共退職金	3,946,071	4,187,131	△ 241,060
教員給料手当	187,924,388	177,942,728	9,981,660
教員通勤手当	5,126,719	5,170,307	△ 43,588
教員法定福利費	27,724,985	27,019,788	705,197
教員中退共退職金	6,844,560	6,488,900	355,660
非常勤給料手当	116,727,325	124,667,720	△ 7,940,395
非常勤通勤手当	5,355,903	6,256,691	△ 900,788
非常勤法定福利費	4,911,463	4,257,445	654,018
福利厚生費	3,574,138	1,711,113	1,863,025
手数料	4,755,930	7,528,700	△ 2,772,770
委託費	51,581,319	54,925,342	△ 3,344,023
支払報酬	3,332,194	5,409,857	△ 2,077,663
支援費	0	607,250	△ 607,250
消耗品費	9,088,354	11,787,923	△ 2,699,569
消耗備品費	136,190	120,414	15,776
食材費	8,057,355	11,384,981	△ 3,327,626
旅費交通費	489,176	8,100,512	△ 7,611,336
通信運搬費	6,103,447	6,265,593	△ 162,146
印刷製本費	472,710	943,216	△ 470,506
広告宣伝費	40,040	446,476	△ 406,436
会議費	179,835	265,524	△ 85,689
渉外費	13,295	27,284	△ 13,989
諸会費	393,904	419,218	△ 25,314
教材費	2,947,748	3,329,792	△ 382,044
新聞図書費	256,484	173,754	82,730
研修費	164,160	170,920	△ 6,760
賃借料	2,813,734	3,981,555	△ 1,167,821
リース料	9,056,093	8,736,255	319,838
仕入費	440,824	814,527	△ 373,703
修繕費	6,298,519	29,844,969	△ 23,546,450
衛生清掃費	19,432,725	19,799,861	△ 367,136
光熱水費	55,617,742	62,242,387	△ 6,624,645
保険料	3,260,673	2,989,941	270,732
公租公課	108,703,770	104,988,475	3,715,295
支払寄付金	1,000	85,664	△ 84,664
保守点検料	9,068,299	9,206,784	△ 138,485
奨学給付費	3,980,000	1,440,000	2,540,000
支払利息	401,580	434,700	△ 33,120
雑費	626,128	751,867	△ 125,739
減価償却費	78,361,727	72,947,561	5,414,166
② 管理費	40,677,199	40,978,208	△ 301,009
職員給料手当	16,642,726	15,956,215	686,511
職員通勤手当	550,226	541,292	8,934
職員法定福利費	2,867,264	2,688,384	178,880
職員中退共退職金	398,009	491,609	△ 93,600
非常勤給料手当	511,263	636,780	△ 125,517
非常勤通勤手当	13,602	25,407	△ 11,805
非常勤法定福利費	1,547	1,780	△ 233
福利厚生費	250,927	178,953	71,974
手数料	593,724	500,060	93,664
委託費	3,957,311	3,515,618	441,693
支払報酬	1,224,231	1,322,527	△ 98,296

正味財産増減計算書

2020年4月1日から2021年3月31日

公益財団法人東京YWCA

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
消耗品費	683,124	639,161	43,963
消耗備品費	0	275,000	△ 275,000
旅費交通費	62,482	184,056	△ 121,574
通信運搬費	1,580,478	1,727,284	△ 146,806
印刷製本費	1,829,761	2,019,933	△ 190,172
会議費	1,918	3,836	△ 1,918
渉外費	13,770	14,083	△ 313
諸会費	34,296	44,482	△ 10,186
加盟分担金	4,614,000	4,672,000	△ 58,000
新聞図書費	23,867	20,641	3,226
研修費	56,000	105,600	△ 49,600
賃借料	96,228	98,304	△ 2,076
リース料	271,549	149,776	121,773
修繕費	155,416	239,473	△ 84,057
衛生清掃費	311,196	311,530	△ 334
光熱水費	1,518,790	1,684,211	△ 165,421
保険料	296,663	259,915	36,748
公租公課	1,003,900	1,066,870	△ 62,970
保守点検料	273,040	569,790	△ 296,750
雑費	20,947	173,519	△ 152,572
減価償却費	818,944	860,119	△ 41,175
経常費用計	914,388,479	959,034,094	△ 44,645,615
評価損益等調整前当期経常増減額	8,229,292	△ 4,844,389	13,073,681
当期経常増減額	8,229,292	△ 4,844,389	13,073,681
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
①固定資産除却損	7	1,871,640	△ 1,871,633
建物付属設備除却損	0	1,871,636	△ 1,871,636
什器備品除却損	7	4	3
②受取補助金等返還額	389,000	886,000	△ 497,000
経常外費用計	389,007	2,757,640	△ 2,368,633
当期経常外増減額	△ 389,007	△ 2,757,640	2,368,633
当期一般正味財産増減額	7,840,285	△ 7,602,029	15,442,314
一般正味財産期首残高	2,098,830,134	2,106,432,163	△ 7,602,029
一般正味財産期末残高	2,106,670,419	2,098,830,134	7,840,285
II 指定正味財産増減の部			
①特定資産運用益	4,908	5,503	△ 595
特定資産受取利息	4,908	5,503	△ 595
②受取寄附金	2,800,641	66,762,936	△ 63,962,295
受取寄附金	2,800,641	66,762,936	△ 63,962,295
③一般正味財産への振替額	△ 21,663,920	△ 18,519,617	△ 3,144,303
一般正味財産への振替額	△ 21,663,920	△ 18,519,617	△ 3,144,303
当期指定正味財産増減額	△ 18,858,371	48,248,822	△ 67,107,193
指定正味財産期首残高	553,012,464	504,763,642	48,248,822
指定正味財産期末残高	534,154,093	553,012,464	△ 18,858,371
III 正味財産期末残高	2,640,824,512	2,651,842,598	△ 11,018,086

補助金及び助成金

2020年4月1日から2021年3月31日

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次の通りである。

(単位:円)

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の記載区分
国庫補助金						
(総務)特定求職者雇用開発助成金	厚生労働省	0	200,000	200,000	0	
地方公共団体補助金助成金						
(公4)調布市民間保育所等運営費等補助金	調布市	60,000,000	63,533,588	63,533,588	60,000,000	特定資産
(公4)調布市延長保育事業費補助金	調布市	0	962,100	962,100	0	
(公4)東京都保育士等キャリアアップ補助金	東京都	0	11,654,000	11,654,000	0	
(公4)調布市限定型保育事業補助金	調布市	0	1,000,520	1,000,520	0	
(公4)東京都保育サービス推進事業補助金	東京都	0	9,226,000	9,226,000	0	
(公4)調布市保存樹木等剪定補助金	調布市	0	82,500	82,500	0	
(公4)調布市保全地区等の保全に関する補助金(保護樹)	調布市	0	79,330	79,330	0	
(公4)東京都認可保育所屋外遊技場芝生化維持管理経費補助金	東京都	0	288,000	288,000	0	
(公4)調布市保育士等新型コロナウイルス感染拡大防止対策事業費補助金	調布市	0	1,439,000	1,439,000	0	
(公4:介護事業)東京都新型コロナ感染症緊急包括支援事業慰労金	東京都	0	522,000	522,000	0	
(公4)板橋区障がい児療育訓練事業補助金	板橋区	0	9,426,000	9,426,000	0	
(公4)板橋区児童発達支援センターサービス推進事業補助金	板橋区	0	13,958,000	13,958,000	0	
(公4)東京都新型コロナ緊急包括支援事業慰労金・感染対策費	東京都	0	1,825,000	1,825,000	0	
民間補助金助成金						
(公1)DV被害者支援におけるサバイバー主導の支援普及プロジェクト	ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)	0	1,290,368	1,290,368	0	
(公2)コロナ困窮支援～外国にルーツがある人々への支援活動応援助成金	(福)中央共同募金会・三菱財団	0	2,100,000	2,100,000	0	
(公3)東京都共同募金会配分金 肢体不自由者水泳指導のために	(福)東京都共同募金会	0	300,000	300,000	0	
(公4:保育園1)独立行政法人福祉医療機構借入金利子補給費	(公財)東京都福祉保健財団	0	401,580	401,580	0	
(公4:保育園1)生活習慣病予防検診費用助成金	(福)福利厚生センター	0	52,000	52,000	0	
(公4:療育(乳幼児))キッズガーデン備品等購入のため	(財)愛恵福祉財団	0	200,000	200,000	0	
合 計		60,000,000	118,539,986	118,539,986	60,000,000	

監査報告

監 査 報 告 書

2021年6月2日

公益財団法人 東京VWC A
代表理事 川口あさ子 様

公益財団法人 東京VWC A
監事 廣川 良子
監事 八木 昭子

当法人の2020年4月1日から2021年3月31日までの会計及び業務の監査を行い、次のとおり報告する。

1. 貸借対照表、正味財産増減計算書並びにその附属明細書並びに附属議決書に対する注記、併せて、議決書前面内容並びに正味財産増減計算書内容表について公益監査法人に監査を依頼し、当該の監査は2020年3月31日の財務状況および附属事項を踏まえて終了する令和4年度の正味財産増減の状況を適正に表示しているとの決算報告を得た。

2. 事業報告書の内容は実質であると認めらる。

以 上

事業を行っている主な拠点

東京YWCA会館	〒101-0062 TEL 03-3293-5421 (代表) FAX 03-3293-5570	東京都千代田区神田駿河台 1-8-11
東京YWCA板橋センター	〒174-0043 TEL 03-5914-1854 FAX 03-5914-1852	東京都板橋区坂下 1-34-25
東京YWCA国領センター	〒182-0022 TEL 042-483-5151 FAX 042-483-5207	東京都調布市国領町 7-11-1
東京YWCA武蔵野センター	〒180-0004 TEL 0422-27-5871 FAX 0422-27-5872	東京都武蔵野市吉祥寺本町 4-9-28
東京YWCA野尻キャンプ場	〒389-1312 TEL 026-255-2414	長野県上水内郡信濃町富濃 3946

公益財団法人東京YWCA

URL: <https://www.tokyo.ywca.or.jp/>

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 1-8-11
2021 年 6 月発行